

2020年11月11日 いちゅい具志川じんぶん館 (Web配信併用)



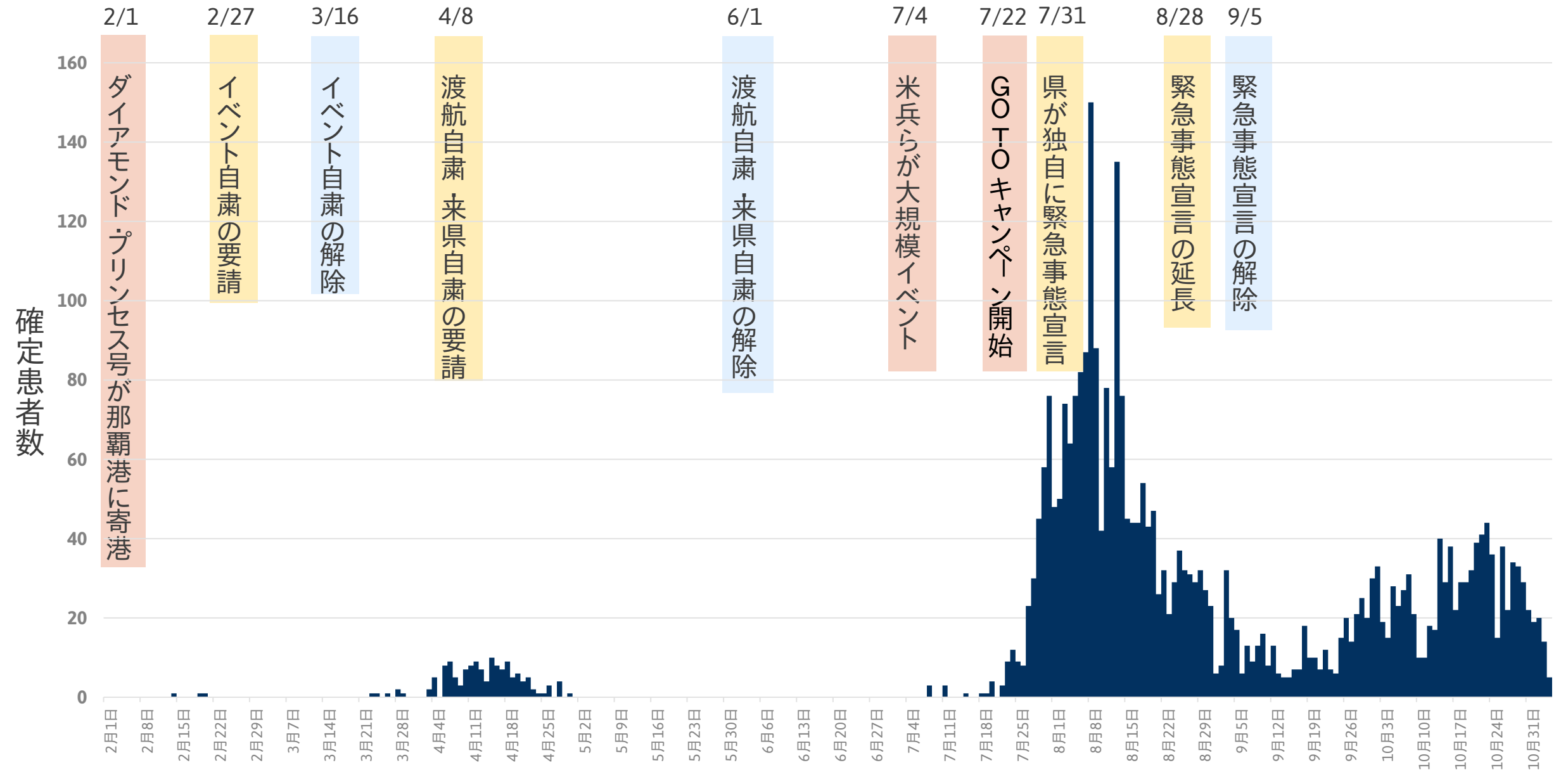
# 新型コロナウイルス感染症の 流行状況、臨床像、感染対策

沖縄県立中部病院 感染症内科  
横山 周平

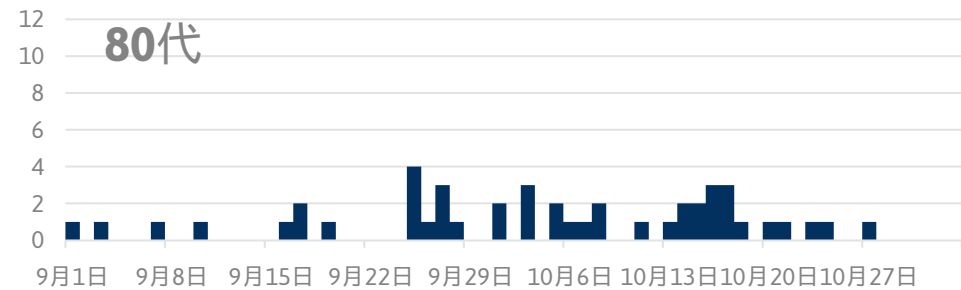
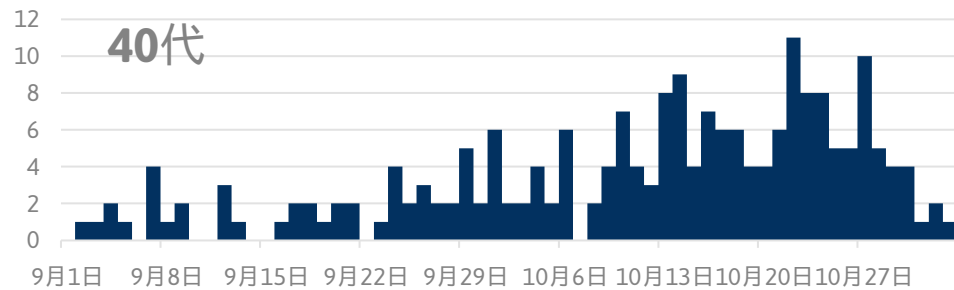
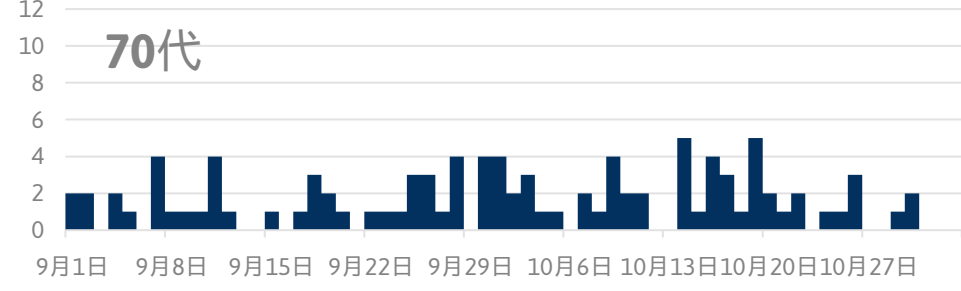
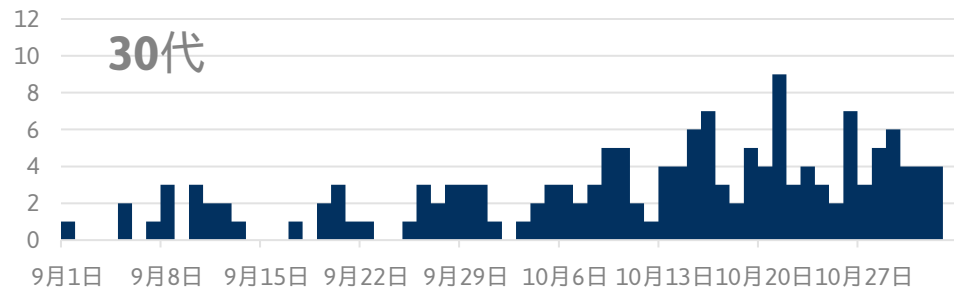
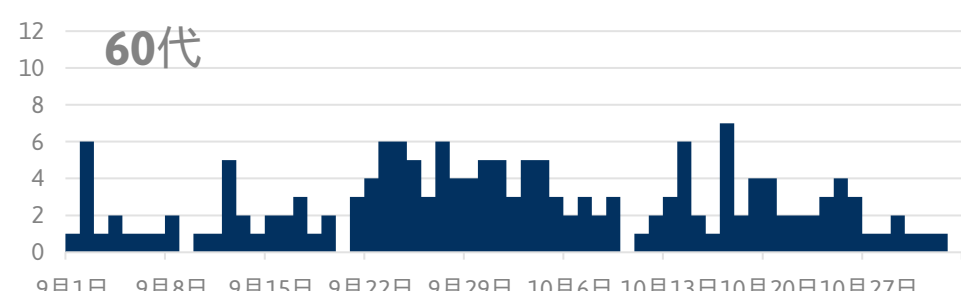
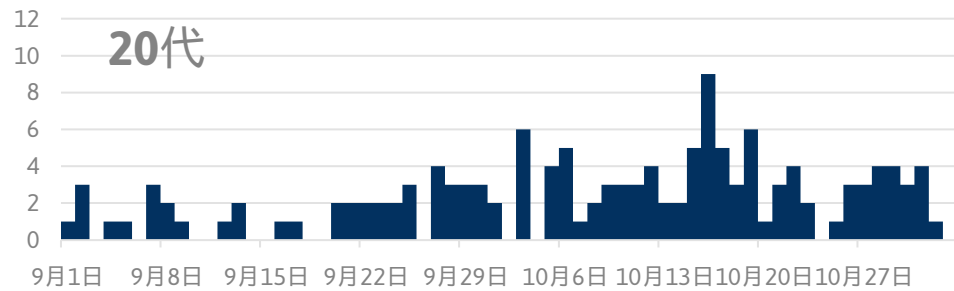
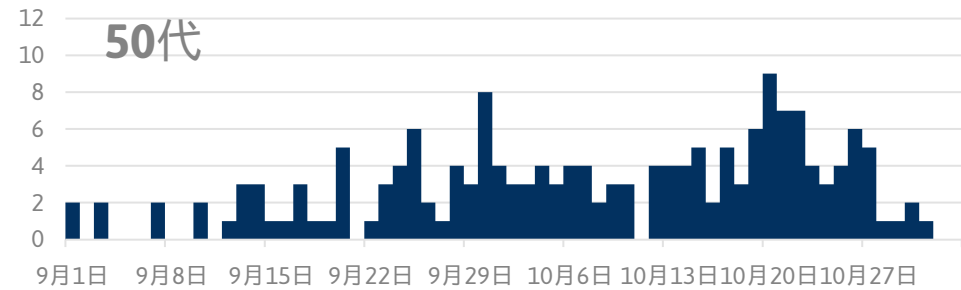
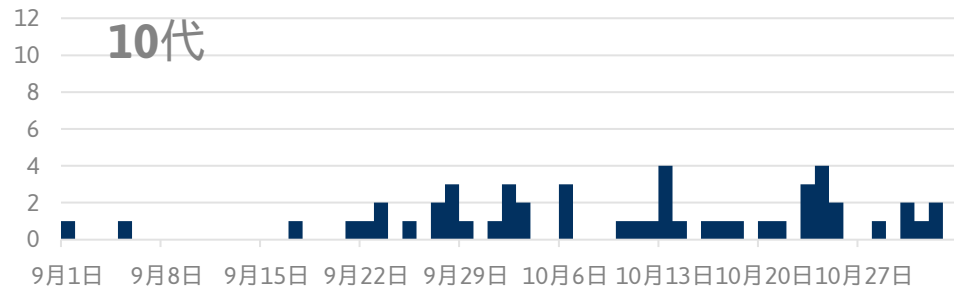
# 今日のお話

1. 沖縄県における新型コロナウイルス感染症の流行状況
2. 新型コロナウイルス感染症とは
3. 感染対策のための基礎知識（飛沫感染、接触感染）

# 沖縄県における新型コロナウイルス患者数の推移 (確定日ベース)

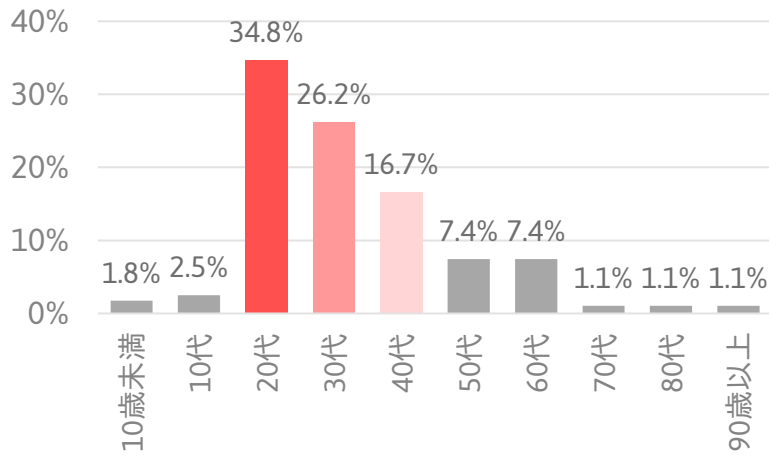


# 新型コロナウイルス感染症の年齢別新規陽性者の推移（発症日ベース）

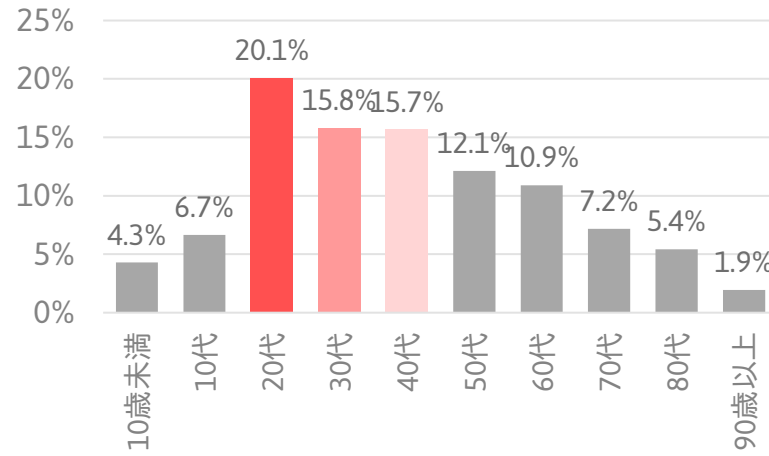


# 沖縄県における月別の年代別の新規患者数の割合

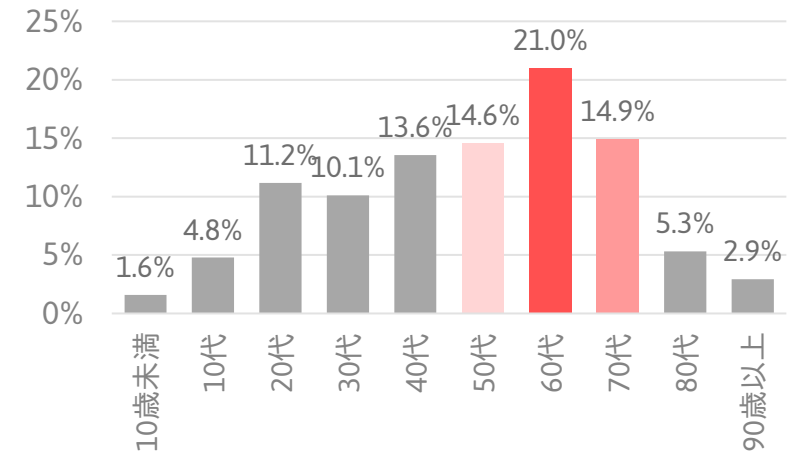
7月



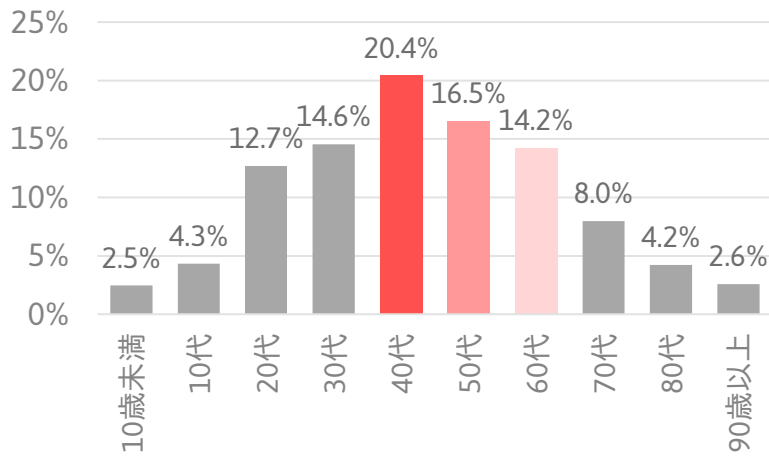
8月



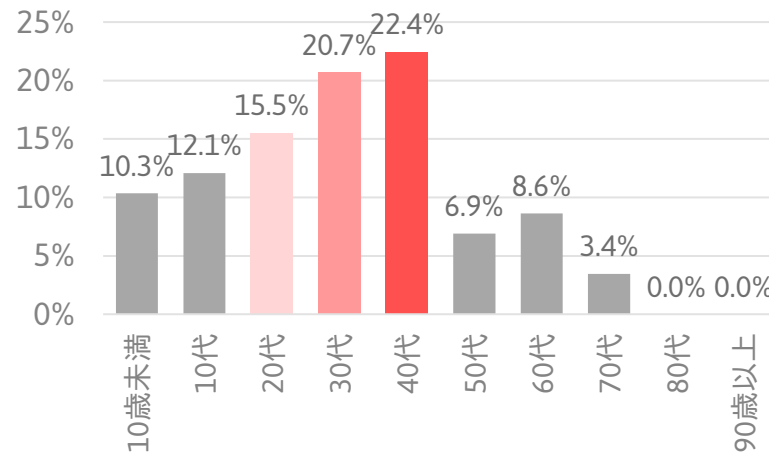
9月



10月



11月



# 沖縄県の流行状況 小括

- ① 中高年者の感染が多い。
- ② 若年層が検査を受けていない可能性がある。
- ③ 検査を受けることで感染の可能性を周囲から疑われ、休職を余儀なくされたり、周囲から忌避の目で見られることを恐れてしまう

ために、実際の陽性者よりも地域での流行が広がっている可能性がある



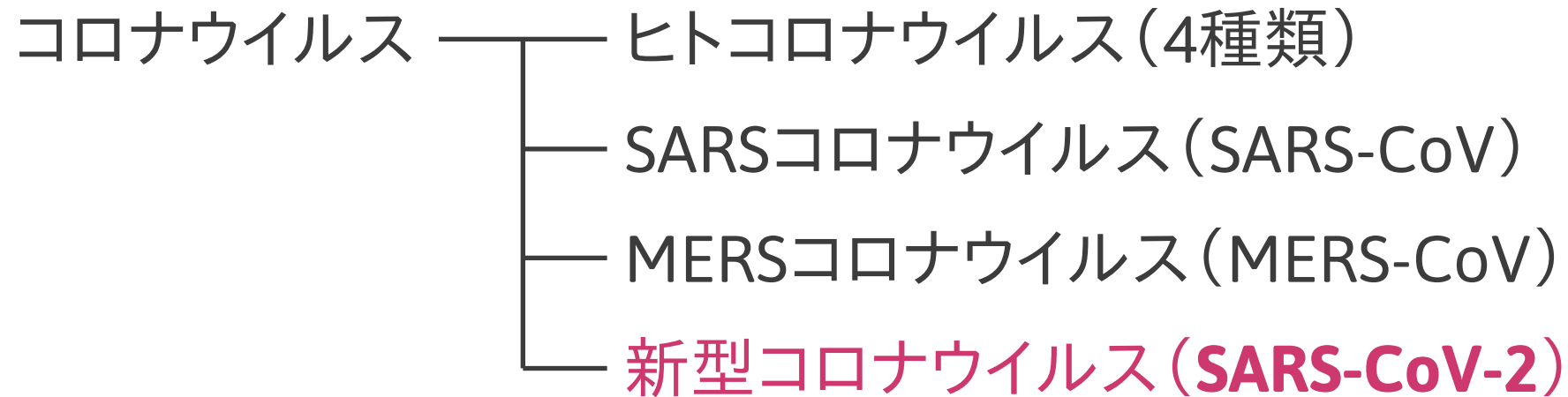
1. 地域流行が続いているいま、地域から高齢者施設へ持ち込まれるリスクが高い  
(持ち込まれないための対策)
2. 誰が感染者や濃厚接触者となってもおかしくなく、施設内で感染者が出てもこれ以上感染を拡大しないような対策・準備をしておかなければならない  
(1人の感染者からクラスターを発生させないための対策)

# 今日のお話

1. 沖縄県における新型コロナウイルス感染症の流行状況
2. 新型コロナウイルス感染症とは
3. 感染対策のための基礎知識（飛沫感染、接触感染）

# 新型コロナウイルスとは何か

- コロナウイルスはもともと風邪の病原体として4種類見つかっていたウイルスである。その後、SARSやMERSなどの病原性の高いウイルスが出現し大きな話題となった。
- 2019年12月31日に、WHO中国事務所は、中国湖北省武漢市で原因不明の肺炎症例が発生している報告を受けた。1月7日に、中国当局により、新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) が分離され、原因ウイルスとして特定された。



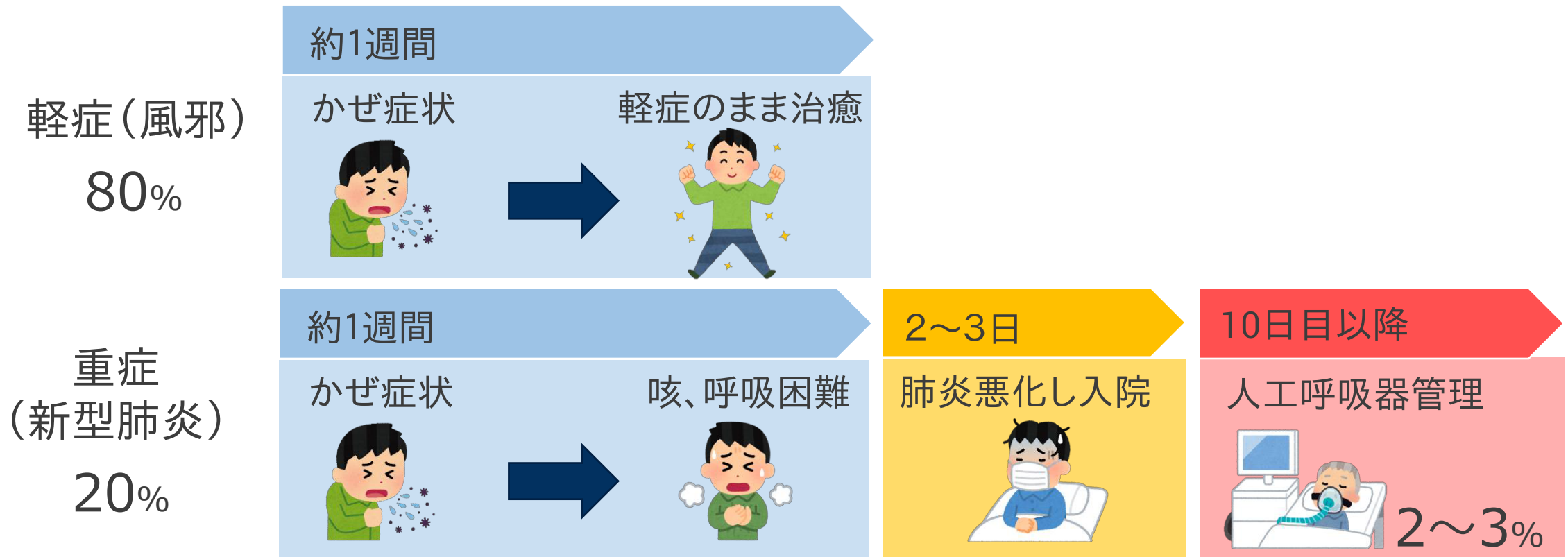


コロナウイルス感染症	かぜ	SARS (重症急性呼吸器症候群)	MERS (中東呼吸器症候群)	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)
原因ウイルス	ヒトコロナウイルス (4種類)	SARSコロナウイルス	MERSコロナウイルス	SARS-CoV-2
発生年	毎年	2002～2003年	2012年～	2019年12月～
流行地域	世界中	中国広東省	サウジアラビアなど アラビア半島	世界中に拡大
宿主動物	ヒト	キクガシラコウモリ	ヒトコブラクダ	不明
感染者数	かぜの原因の 10～15%を占める	8,098人(終息)	2,494人 (2020年6月25日現在)	100万人以上 (2020年10月1日現在)
致死率	極めて稀	9.4%	34.4%	5.0%
感染経路	咳などの飛沫、接触	咳などの飛沫、接触、便	咳などの飛沫、接触	咳などの飛沫、接触
感染力 (基本再生産数)	1人から多数	1人から2～5人 スーパースプレッダーから 多数への感染拡大あり	1人から1人未満 スーパースプレッダーから 多数への感染拡大あり	1人から2～3.5人
潜伏期間	2～4日	2～10日	2～10日	1～14日
感染症法	なし	2類感染症	2類感染症	指定感染症

# 新型コロナウイルス感染症の症状と臨床経過

感染してから4～5日（最大14日）後に風邪症状（※）が出現する。普通の風邪と異なり、嗅覚異常、味覚異常が出てくる人もいる。風邪症状が1～数日程度ですぐに改善する人がほとんどだが、約20%の重症化する人はかぜ症状が1週間続いた後、急に肺炎が悪化する。

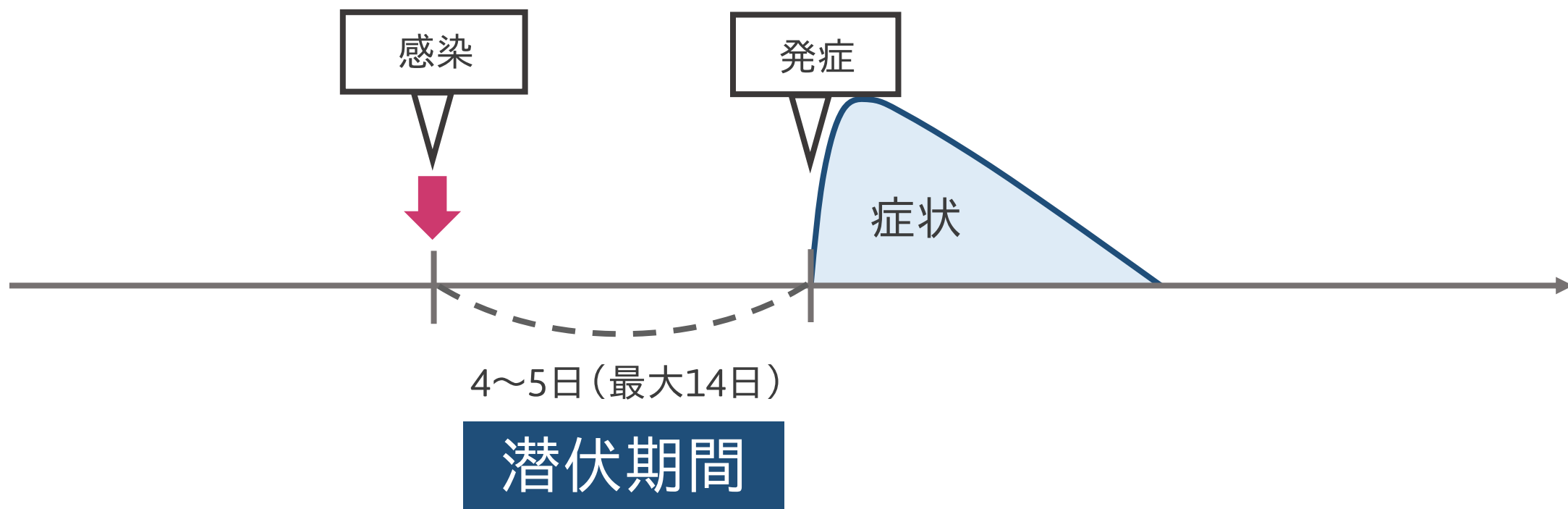
（※）発熱、咳、のどの痛み、筋肉痛、関節痛、頭痛、下痢など



# 潜伏期間とは

ウイルスが体内に侵入し感染してから、体に症状が出始めるまでの期間を潜伏期間という。

新型コロナウイルスの潜伏期間は約4～5日で、最大14日間とされている。



# 重症化のリスク因子

## 重症化のリスク因子

- 65歳以上の高齢者
- 慢性閉塞性肺疾患（COPD）
- 慢性腎臓病
- 糖尿病
- 高血圧
- 心血管疾患
- 肥満（BMI 30以上）

## 重症化のリスク因子かは知見が揃っていないが要注意な基礎疾患等

- 生物学的製剤の使用
- 臓器移植後やその他の免疫不全
- HIV感染症（特にCD4 <200 /L）
- 喫煙歴
- 妊婦
- 悪性腫瘍

# 今日のお話

1. 沖縄県における新型コロナウイルス感染症の流行状況
2. 新型コロナウイルス感染症とは
3. 感染対策のための基礎知識（飛沫感染、接触感染）

# 飛沫感染

## 飛沫感染

感染者がくしゃみ、咳、歌唱、会話、呼吸をしたときに飛沫が生じる。この飛沫のサイズは目に見えるほどの大きさからさらに小さなものまで幅がある。小さな飛沫は空気中で非常に速く乾燥し微粒子となりうる。大きな飛沫は重力に従って落下するが、感染性のある人と近く(約2m以内)にいた人の目、鼻、口の粘膜に飛沫が直接付着することで感染する。小さな飛沫や微粒子は数分～数時間、空気中に漂うこともあり、2m以上離れていた人も感染しうる。閉ざされた空間で換気が十分でない環境で感染した事例が報告されている。特に感染した人が荒い呼吸をしたり歌唱や運動をしていた場合はリスクとなる。

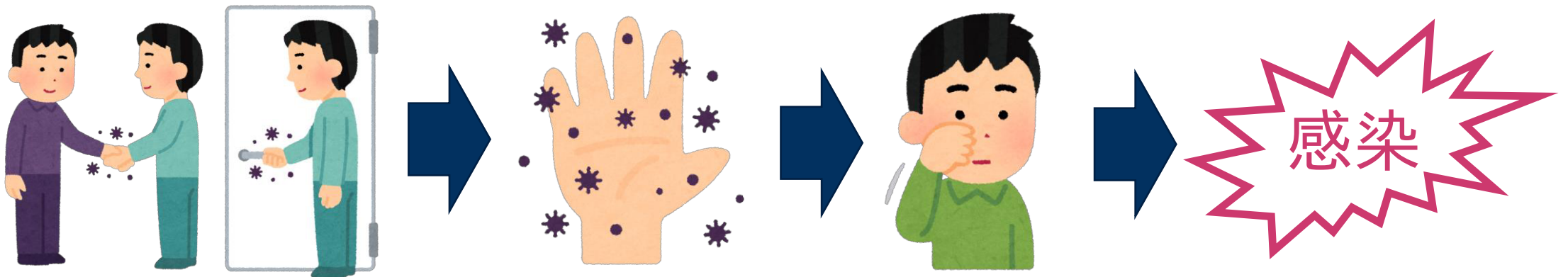


# 接触感染

## 接触感染

感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつく。他の人がウイルスが付着したモノを触るとウイルスが手に付着し、その手で目、口、鼻を触ると粘膜から感染する。

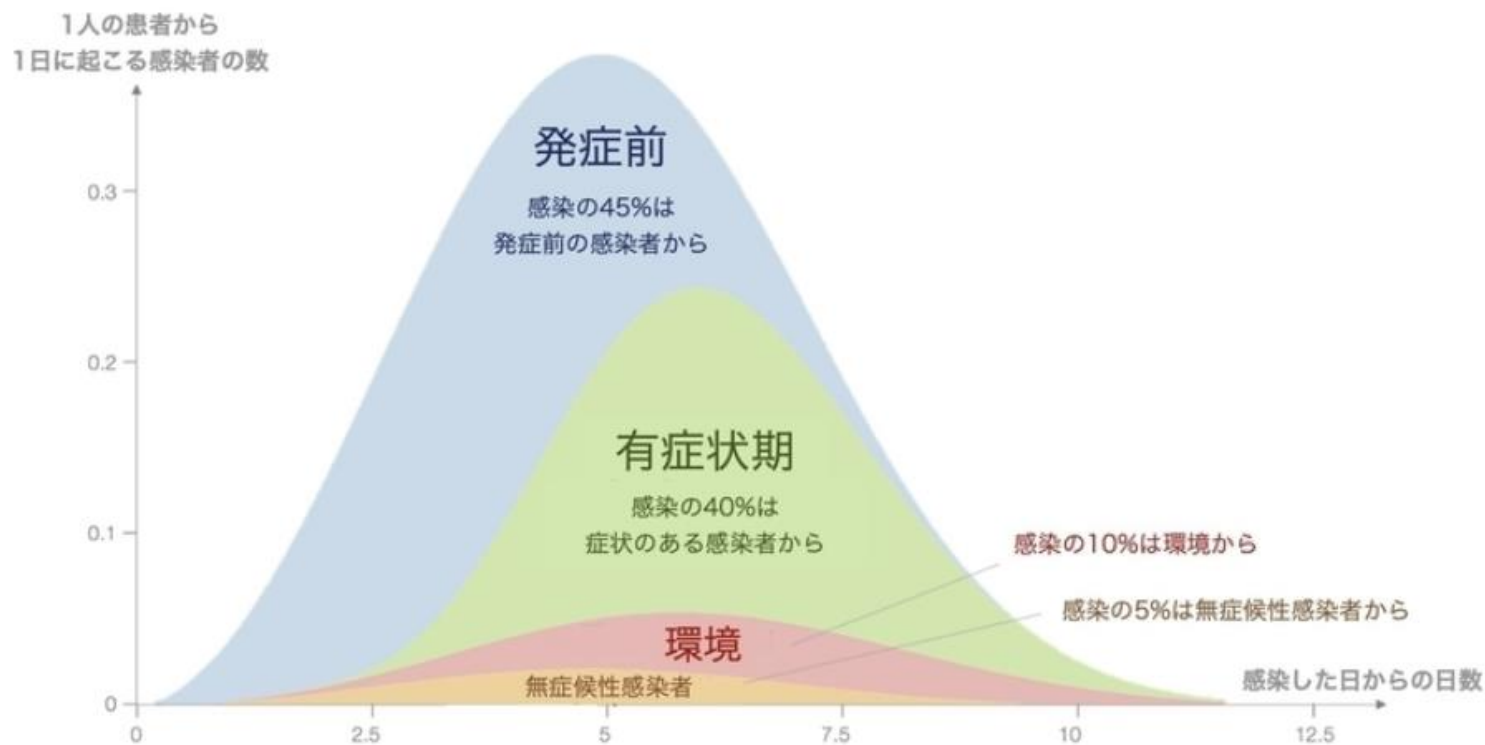
飛沫感染よりも感染拡大の頻度は低いとされているが、材質によっては感染性のあるウイルスがモノの表面に数日間存在するという報告もある。



# 無症状であっても標準予防策が重要な理由

ヒトからヒトへの感染は、①発症前の時期が45%、②発熱や咳などの症状のある時期が40%、環境（高頻度接触面など）を介した感染が10%、無症候性感染者からが5%とされている。

新型コロナウイルス感染者の50%は無症状者からの伝播であることが分かっている。



感染した日からの感染性の推移 (Science 10.1126/science.abb6936 (2020).およびTomas Pueyo氏 "The Basic Dance Steps~"より)



# マスクが大切な理由① 咳やくしゃみのしぶきを拡散させない

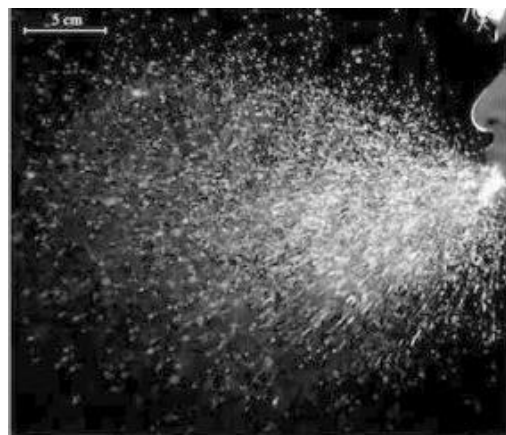
マスク着用により、ウイルスが大量に含まれる飛沫を拡散させない効果が期待できる。

マスクは「自分から他者」への感染には予防効果がある。「他者から自分」への予防効果は科学的根拠が不十分である。

飛沫を拡散させないために、マスクを着用するときは鼻と口を覆うことが重要。

マスクの布部分は最も汚染されているので、手で触らないようにする。触った場合は手指衛生を行う。

マスクは、こまめな手洗いとセットではじめて効果がある。

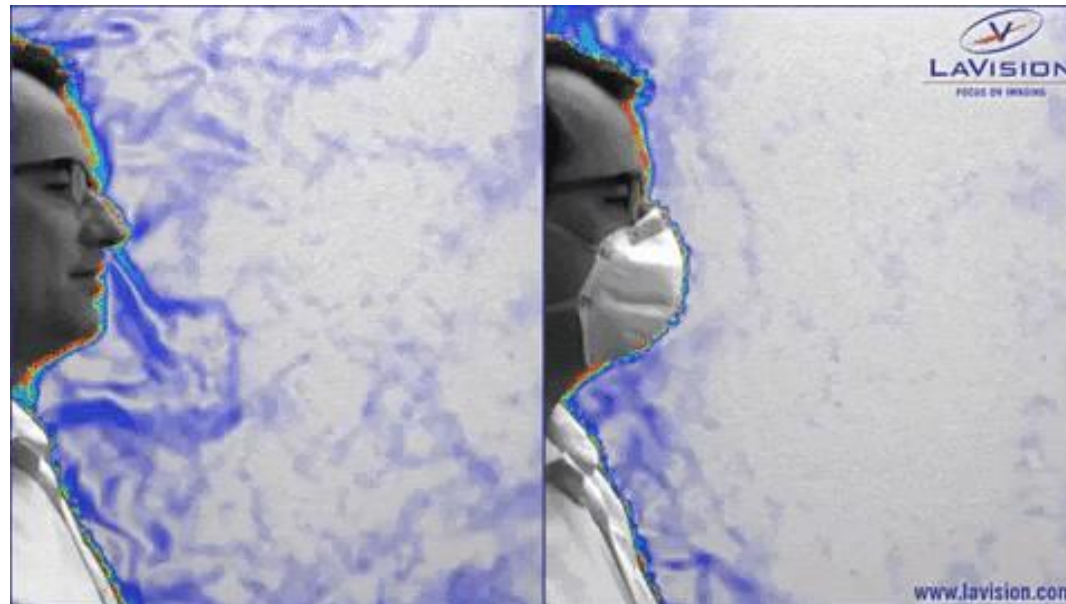


## マスクが大切な理由② 会話や呼気でも飛沫が発生する

会話や呼気で発生する飛沫の量は、咳で発生する飛沫の量と変わらないことがわかってきた。

また、マスク着用によりヒトコロナウイルス（新型コロナウイルスではなく）に感染した患者の呼気からはウイルス排出が減少するという報告もある。

実際に、少なくとも1人以上の感染者が出た家族のうち、最も感染が拡がりにくかった要因は「発症前からのマスク着用」であったとする報告もでている。



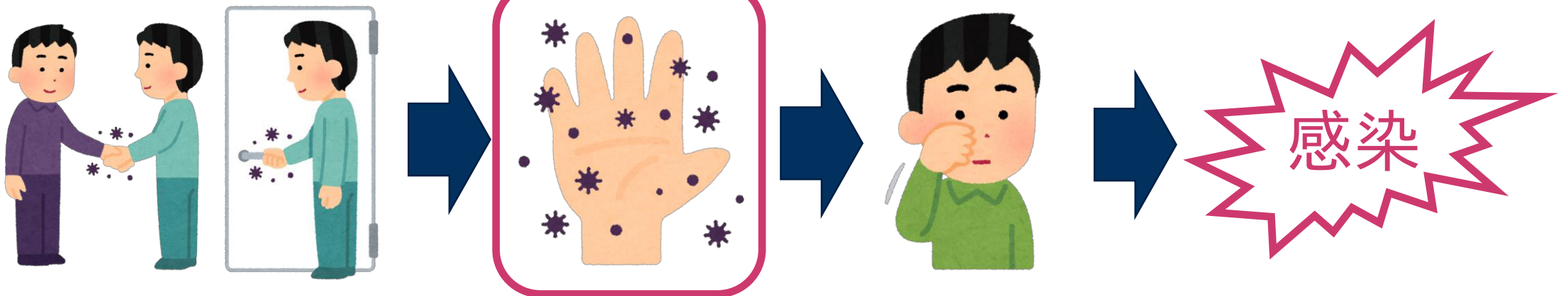
# 手指衛生が大切な理由 接触感染の感染経路を断つ

様々なモノを触る手には気づかないうちにウイルスが付着している可能性が高い。

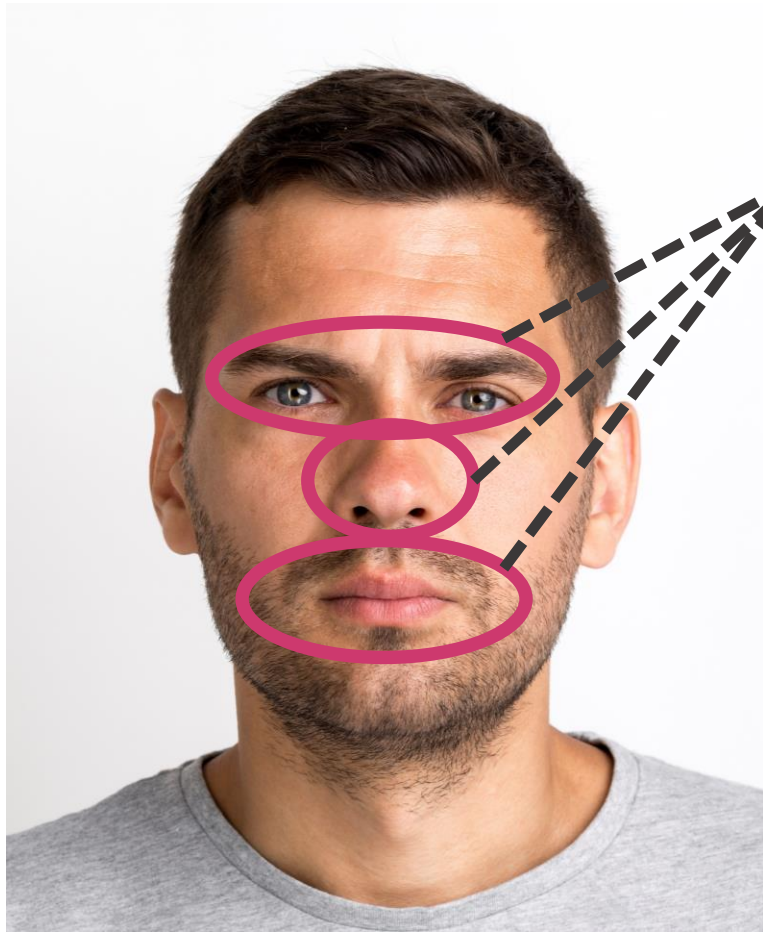
汚染された手で目、鼻、口に触れると、ウイルスが粘膜に付着して感染してしまうため、こまめに手を洗うことが重要。

手指衛生は、アルコールでもよいし、石けん+流水でも十分である。

ここで感染経路を断つ



# 感染経路から考えられる感染対策のポイント



感染性のある人から近いところで飛沫を吸入したり、目、鼻、口の粘膜にウイルスが付着すると感染が成立する

- ➡ 感染者からウイルスが含まれる飛沫が放出されることを防ぐため、**マスクを着用する**
- **部屋の換気**をする（常時換気）

ウイルスが付着した手で目、鼻、口の粘膜を触ると感染が成立する

- ➡ **こまめに手を消毒する**（アルコールを用いた手指衛生、石けんと流水を用いた手洗いのいずれも有効）

# まとめ

- 新型コロナウイルスは、ウイルスに感染してから症状が出るまでの期間（潜伏期間）が4～5日（最大14日）と長く、さらに症状がまだ出ていない期間も周囲に感染させてしまう。
- 感染経路は飛沫感染、接触感染である。密閉した空間で感染した人から放出された飛沫を吸い込んだり、目・鼻・口の粘膜にウイルスが付着することで感染が成立してしまう。